

「河川技術・流域管理分野 提案型課題(流域課題)」
(令和4年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
山間狭窄部における超過洪水に対する人的被害最小化のための方策に関する研究	九州大学 田井 明	B
＜研究概要＞ 令和2年7月に球磨川流域で生じた豪雨災害の被害拡大要因として河道と氾濫原が狭窄していることにより大きな水位上昇が生じたこと、流域地形の勾配が大きいことにより堤内地でも河道に沿った大きな流速が生じたことにより、家屋への直接的な被害が生じたことや避難行動が困難になったことが考えられる。本研究では、山間狭窄部における超過洪水に対する被害最小化のために住宅の耐水害性の評価技術に関する研究を実施する。		
＜事後評価コメント＞ 建築分野との連携があったことは評価できるが、得られた結果の説明(一般化への貢献)がやや不明確であった。住宅の崩壊危険度判定を、避難指示する自治体へどう情報提供するかなどの検討も含め、被害最小化のための対策への貢献も期待したい。		

※評価基準

- A:研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
B:一定の研究成果があった。
C:研究成果があったとはいえない。